

令和4年11月11日

筑紫野市議会  
議長 高原 良視 様

会派 市民会議  
報告者 西村和子

## 令和4年度 会派市民会議 研修報告書

会派市民会議が参加した研修について、下記のとおり報告します。

### 記

1. 日 時

令和4年10月11日（火）から13日（木）2泊3日

2. 研修先及び研修項目

公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所  
滋賀県大津市唐崎2丁目13-1

令和4年度市町村議会議員研修 [3日間コース] 「人口減少社会における議会の役割」

3. 研修者

西村和子 計 1名

4. 内容 別添のとおり

## 人口減少社会における議会の役割 報告

### 【研修目的】

自治体における人口減少に伴う課題とそれに対する政策を検討することにより、来たるべき筑紫野市の人口減少に備え、対応する考え方を学ぶことを目的とする。

### 【内容】

#### I. 10月11日 13時から15時15分

テーマ：地方行政の現状と課題

講師：宍戸邦久 新潟大学経済科学部教授 副学長

##### 1. 地方自治体をめぐる「平成」の出来事

①地方分権改革 第1次 機関委任事務制度廃止

第2次 事務権限移譲⇒政策的最良の拡大、政策上の説明責任

②平成の大合併

③行政改革⇒政策目標の効率的・効果的な実施の実現

##### 2. 2040年に向けての課題

・2040年に向けて日本の人口動向予測

・2040年頃まで個別分野の課題

①小規模小中学校の廃校

②大学進学率が低い地方圏において、高等教育を受ける機会の更なる喪失

③老朽化したインフラ・公共施設の大幅に増加 \*水道料金の大幅上昇

④高齢者・女性・若者の労働参加がなければ労働力不足

⑤地方では労働集約型サービス産業が増加

##### 3. 人口減少社会の見方・捉え方・動き方

(1) 行政の限界を認め、語る。

・自治会が維持できない 高齢施策の支出増 森林維持困難 子育て環境の困難化  
地域公共交通消滅 市街地の空洞化 地域社会の活力低下 地域防災力・防犯力の低下  
地域伝統文化の消滅 水道事業の赤字化 若者数減少 起業人材不足  
若者の出会いの場の減少 農業者減少による食料自給率低下 所有者不明土地の増  
墓守の消滅

##### 4. 人口減少対策の取り組み 新潟県の例の紹介

県政のあらゆる分野での取り組みを総動員し、出生率・出生数の増加化の取り組み紹介

#### II. 10月11日 15時30分から17時

科目：過疎地域の持続可能なまちづくり

講師：石山 志保 さん 福井県大野市長

- (1) 三つの重点プロジェクト
  - ①高速交通アクションプログラム
  - ②健康のまちづくり
  - ③大野ですくすく子育て応援パッケージ
- (2) 経済・社会活動維持のための対策
  - ・地域経済の消費喚起
  - ・人のつながり創出
- (3) 人口減少対策の取り組み
- (4) デジタル化の取り組み
  - ・人口減少時代の人手不足をデジタル化で解決
- (5) 脱炭素の取り組み
- (6) 地域づくりの取り組み
  - ・自治会活動の担い手不足⇒助け合い、支え合いを大切に

### Ⅲ. 10月11日 17時から18時

意見交換会 12日の演習グループ3人（宮城県大崎市の相澤議員・多治見市の仙谷議員・私）が自己紹介の後、各自の自治体の情報交換や各自の活動紹介を行った。

\*これが2日目の演習をスムーズに進める手助けとなった。

### Ⅳ. 10月12日 9時から17時

講義・演習・講評とまとめ：わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える

講師：倉阪 秀史 さん 千葉大学大学院社会科学研究院教授

#### 1. 資料『地域の未来予測に基づく政策立案』に沿っての説明

##### (1) 背景

- ①長期的な対応が求められる課題に対応するバックキャスト型政策形成  
あるべき社会像を社会の一員と一緒に作り上げていく作業が求められている。
- ②脱炭素社会の実現  
政府は、2030年までに脱炭素専攻地域を少なくとも100カ所作る計画  
⇒地域の課題解決につながる
- ③人口減少・高齢化に伴う地域課題の解決  
脱炭素投資は地域課題の解決にもつながる⇒地域の新しい事業が増え雇用が広がる  
脱炭素社会の実現と地域課題の解決を同時に考えることが必要

#### 2. わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える

- (1) 未来カルテ2050に沿って、①山口県平生町 ②岐阜県海津市 ③愛知県愛西市  
④宮城県大崎市 の状況を説明

##### (2) 演習

参加者79名が3名から4名の21班に分かれ、5または6班ごとに上記各4自治体

を担当。

- KJ法により、課題抽出、提言をまとめる。この際、意見を否定しない、責任を取らない、ことを条件とする。
- 私たちは大崎市について検討したが、どこをとっても課題ばかりで、効果が同あがるのを見通せない中で意見交換しながら提言をまとめた。
- 模造紙に上記をまとめた後、3人のうち1人が残り自分の班の説明。他2名が④以外の2自治体の割り当てられた班の説明を聞きに行くというワールドカフェ形式での紹介を3回行った。  
ある自治体の説明で、過去にあった報告として、小学校5校を1校に統合する2年前の時点で首長が「閉校前にせめて快適なトイレを」と2億円をかけて閉校する学校のトイレを改修したという紹介があり、聞いていた全国の議員たちから「もったいない！」の聲が挙がった。
- 最後に21班すべてが自分たちの班の結果報告を行った。

## V. 10月13日 9時から12時

### 人口減少社会における議会の役割

講師：木寺 元 明治大学教授

- 現在の政党組織も、また男性中心的な価値から自由ではないのではないかと。党中央の意向で多様な意見を封鎖する可能性がある。
- 首長提案の可決率＝数字で表れるものしか評価していない。できない。
- 政策的な立ち位置に男女差はあるか。  
地方議会で女性議員比率が高まると、公債発行額、公社・公団・公営企業体への投資額は低くなり、リスク回避型の財政判断が行われやすい。(Suzuki.K)
- 政治家集団の二極化が、単純に制作の差異によってもたらされる場合、市民もまた支持者として分極化していく。
- 内からの改革論が目指してきたのは、非対称な二元代表制を是正し、首長に対抗できる専門知識や能力を持った議会を構築することである。政党や会派の対立を乗り越え、政策討議を行い、議会として一定の結論を得て首長と対峙する姿が目指す方向ではないか。

### 【まとめと所感】

近い将来、人口減少に移行することが見込まれる本市において、どのような考方で、どのような政策や施策で対応していけばよいのかを学びたいと考え参加を希望しました。その疑問に回答を与えていただいたと考えます。特に、演習において、自分が属しない自治体の課題を検討することで壮絶なほどの人口減少がもたらす状況に対して、客観的に対策を考えることができました。

また、共通の課題を共に考えている全国の議員がいることも実感し、力となり、収穫の大きな研修でした。

以上  
西村和子

【状況写真】

